

平成 30 年度 学校経営計画

1 めざす学校像

教育目標

- 1) 豊かな知と健やかな心を育てる人間教育を行い、人々の幸福と社会の発展に貢献できる人材を育てる。
- 2) グローバル化の進む社会に適応できる英語力とコミュニケーション能力を身につけ、広く国際社会で活躍できる人材を育てる。
- 3) 「行きたい」「行かせたい」と言われる、地域に信頼され、誇りとされる学校をめざす。

2 中期的目標

1 新たな学校としての指導体制・経営基盤の確立

- ① 持続的・継続的に安定した学校運営ができるために、しっかりとした指導体制と健全な財務状況の確立を目指す。
 - a) 教職員の採用・人事配置・定数管理等、適正に管理する。同時に、労働条件等について随時労使で検討し、より良い労働環境を追求する。
 - b) 年間日程・行事等は前例にとらわれず、必要性や効果の検証を基に決定する。
 - c) 募集活動を充実させ、安定的に志願者が確保できるようにする。
 - d) 併設 中・高・大の連携を密にし、学園一体となって教育活動を行う。

2 教育内容の充実

① 基本的な教育内容の徹底

- a) 伝統的な学校行事や式典において、建学の精神を基本とする教育目標を浸透させる。
- b) 将来の自立に向け、基本的生活習慣の確立、マナー意識、規範意識を育む。また、誰にでも挨拶ができ、男女や年齢に関係なくコミュニケーションがとれる生徒を育成。
- c) 他者を思いやり円滑な人間関係の構築ができるよう支援し、人権を尊重する意識を育成する。
- d) 課外授業や試験前補習、自習室の開設など、生徒の学習を積極的に支援する。
- e) 文化行事や講演会を企画し、情操教育の充実を図る。

② ICT化の推進

- a) 全教室に完備されたPCとプロジェクターを利用した授業の研究と推進を図る。
 - b) 生徒の活動をポートフォリオ化するために、ICT機器を用いてデータを蓄積する。
 - c) オンライン英会話を全学年・全コースの生徒で実施できるよう、ネット環境を整備する。
 - d) 教員用小型モバイルと生徒用実習向けモバイルの採用について検討を進める。
- ③ 国際化の推進：積極的に国際交流を行い、多様性を理解できる国際感覚とそれに裏付けられた語学力を育成する。
 - a) 中学・高校を問わず、海外の学校との交流を諮り、たくさんの生徒が交流に関われるようにする。
 - b) 本校の生徒を積極的に海外へ送り出し、海外での生活を経験させる。特に、府の海外派遣事業への参加を支援する。
 - c) 全学的に英検受験を推奨し、合格者全体の増加と、上級への合格を目指させる。
 - d) 海外大学進学予定者へのサポートを行う。特に台湾の大学進学希望者へのサポート。
 - e) 台湾・台中にある「静宜大学」との連携事業の実現と継続。

④ 教員の資質向上

- a) 研究授業や公開授業は継続して実施。また、外部の研修にも積極的に参加させる。
- b) 授業アンケートは継続して実施、査定ではなく自己点検に役立つ。
- c) 若手教員には、教科指導やクラス運営について、ベテラン教員から今まで以上に助言と指導を行う。
- d) 学年主任や運営委員など、学校運営の主要ポストの人事では、未経験者を積極的に起用、経験を積ませる。

⑤ 施設・設備の充実

- a) 体育館の耐震化・リニューアルに向け、業者選定と工事計画策定に着手する。
- b) 新しい教務システムを導入し、成績処理や各種書類作成をオンライン化、仕事の軽減につなげる。
- c) 情報教室のPCやシステムなどの更新を行う。
- d) 特別棟の耐震診断を行うと同時に、今後の使用についての検討を始める。

⑥ 安全教育の推進

- a) 自転車通学生徒の事故が増加傾向にあることを重視し、交通安全指導の徹底。
- b) 府や市の実施する、地震・津波等の自然災害に対する訓練に参加し、日頃からいざという時の為の準備を行う。
- c) 違法薬物の危険性を周知し、防止教室を開催、啓蒙活動を行う。

3 進路指導の充実 …… 中堅進学校としての大学進学実績の向上をめざす

- ① 4年制大学への進学率を75%以上にする。
- ② 国公立大学や難関私立大学、中堅私立大学、さらには志望の多い看護・医療系、薬学部への合格実績をあげる。
- ③ 目標達成に向けて努力する態度を養い、志望校合格に向け最後まで挑戦する姿勢・意欲を生み出しサポートする。
 - a) 英語を重要受験科目として位置づけつつ、国語を中心に他教科でも、言語活動を充実させる。
 - b) 普段の授業においては、入試問題にも触れながら生徒の意識を高め、課外では、具体的な大学名を提示しながら志望校への意識と合格への道筋を明らかにする。
 - c) 合否結果や成績との相関など上級生の受験データを下級生の指導に役立たせるよう、分析と対策を教員間で共有する。

4 その他

- ① PTA活動の活性化
- ② 租税教育の推進

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 31 年 1 月実施分]	学校協議会からの意見 (実施：平成 31 年 2 月)

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 指導体制・経営基盤の確立	教員の資質向上と定数管理・募集活動の充実・中・高・大の連携。	① 生徒による授業評価アンケートと校長面接は継続実施。年功序列的な人事配当はせず、中堅教員にも重要なポストを経験させる。 ② 専任教員の年齢バランス、常勤・非常勤講師の数的バランスを考慮し、採用計画を立てる。 ③ 募集活動をより確かなものにするための人事や時間配当を行う。 ④ 労使双方より代表を出し合い、労働条件についての協議を行う。	① 全教科で各学期の研究授業を実施できるか。 ② 人事配置により、校内が活性化するか。 ③ 人件費率が60%以内に収まるか。 ④ 入試広報副部長の時間減により、塾との連携が強化できるか。 ⑤ 中学70名、高校380名の新入生を獲得できるか。 ⑥ 「給与関連検討委員会」を継続的に開催し、より良い労働条件を見出せるか。	① ② ③ ④
2 基本的な教育内容の徹底	基本的な生活習慣の定着をはかり、情操教育の充実・いじめの無い学校作りを推進する。	① 時間厳守を身につけさせるために、生徒指導部を中心に、五分前行動の徹底と「遅刻0週間」の設定。遅刻の多い生徒には、生徒指導部長・教頭からの説諭。 ② 情操教育の充実として、芸術鑑賞会や講演会などで一流の作品に触れさせ豊かな人格を育てる。 ③ いじめ対策。 ④ カウンセリング・生徒相談室の充実。	① 遅刻者数を平成30年度終了時には、前年度比15%の減少を図り、また、生徒自治会の活動の一環と位置付け、委員会活動の活性化を促せるか。 ② 生徒全員対象に、一流の芸術作品鑑賞会を実施できるか。 ③ 年1回のいじめに関するアンケートの実施。生徒から情報提供しやすいようなシステム作りが確立できるか。 ④ 女性カウンセラーの増員と臨床心理士との契約で、医療や行政との連携を図れるか。	① ② ③ ④
3 ICT化の推進	生徒の活動のポートフォリオ化と教員用・生徒用モバイルの検討。	① 2020年度の大学入試改革を睨み、生徒の活動のポートフォリオ化を実施、日々の学習状況や実力テストの結果も合わせて、システムを用いて保護者と共有する。 ② 全学年全コースで、オンライン英会話を実施できるようネット環境の整備を行う。 ③ 生徒の活用頻度を上げられるように、タブレットの台数やスペックを上げる。また、教員用のモバイルについて検討を始める。	① ポートフォリオ化するためのソフトの研修会や学習会を行い、教員全体が使いこなせるようにできるか。 ② 全学年で毎学期にオンライン英会話を実施できるか。 ③ 生徒全員が、プレゼンや行事のまとめで、一度はタブレットを使用し活動できるか。	① ② ③ ④
4 国際化の推進	昨年に引き続き生徒が海外の生徒と触れ合う機会の確保と、海外大学との連携推進。	① 中学・高校共積極的に海外交流を受け入れる。 ② シドニーにあるメリデン高校、台湾高雄にある高級職業学校と、短期・長期の交換留学生を出す。羽衣オリジナルプログラムの短期語学研修(3月末にカナダバンクーバー・8月にフィリピンセブ島)を実施する。 ③ 年に2回、学校全体で英検とGTECを受験。結果を日頃の授業にフィードバックする。 ④ 海外大学への進学希望者への情報提供とアドバイス・合格指導を実施。	① 中学・高校共、年間3回以上の交流を実施できるか。 ② 交換留学生が2名以上。カナダ語学研修に15名以上、フィリピン10名以上の参加があるか。 ③ 台湾修学旅行は100名以上で実施できるか。 ④ 英検・GTECで昨年以上の結果が残せるか。 ⑤ 海外大学への進学者3名以上あるか。 ⑥ 校内での、華語(中国語)講座に10名以上の参加があるか。	① ② ③ ④
5 進路指導の充実	合格実績の向上と生徒・保護者の満足度を上げる。	① 希望する4年制大学進学に向け、進路指導部、コース、学年が一体となり、進路指導と受験指導を行う。 ② 各学年・各コースで、意欲ある生徒に対して課外授業を設定。特に高Ⅲでは、生徒の志望大学別課外の実施など、進路実現に向け最大限の援助を行う。 ③ 大学見学会や外部の合同説明会に参加をさせ、学部理解や志望校の情報収集ができる機会を設ける。	① 4年制大への進学率が75%以上になるか。 ② 国公立大学10名以上・関関同立50名・甲龍産近50名以上、羽衣国際大進学30名以上の実績が残せるか。 ③ 実力テストで、各教科とも平均偏差値を5ポイント以上上げられるか。 ④ 高Ⅱ3学期は、高Ⅲ0学期と位置づけ本格的に各志望分野・志望大学別の指導を行えるか。	① ② ③ ④
6 施設・設備の充実	体育館の工事を安全に遂行する。また、ICT機器を適正に導入する。	① 体育館の耐震リニューアル工事の業者を適切に選定し、生徒の安全を確保しながら、期日内に計画通り遂行する。 ② 新しい教務システムを本格稼働させ、教員の業務軽減を目指す。 ③ 情報教室の機器類を府の補助金を受給しながら全面更新する。 ④ 校内のWifi環境を整備する。	① 施工業者と綿密に打ち合わせを行い、安全安心に事故なく工事を完了できるか。 ② 成績処理などの教務処理が新しいシステムでスムーズに行われるように、研修できるか。 ③ 内容と価格を精査し、条件の良い業者を選定、情報教室でスペックの高いシステムを構築できるか。 ④ 校内無線LANが設置できるか。	① ② ③ ④